

様式1 平成27年度 山梨県立富士見支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	---

山梨県立富士見支援学校校長 石原 一彦

本年度の重点目標	1 合理的配慮を考慮し、児童生徒の実態に即した支援や学習指導に努める。
	2 病弱児教育の充実とセンター的機能の発揮に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(平成27年12月20日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	合理的配慮を考慮し、児童生徒の実態に即した支援や学習指導に努める	合理的配慮に基づき、児童生徒の実態に応じた教育課程の編成に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	・児童生徒の実態に応じて教科等を設定し、グループ編成を工夫した。児童生徒が心身の状態を整えながら、バランスよく学習に取り組める環境を用意することができた。	B	・時間割編成業務は、調整に時間がかかり大変複雑なものとなった。しかし、児童生徒の実態に応じた学習環境を整えるためには、工夫をしながら、来年度も引き続き毎週の時間割編成を続けたい。
		個々の児童生徒の実態に応じた個別の指導計画を作成し、的確な評価と指導の改善に努める。また、個別の教育支援計画の作成に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	・児童生徒指導検討会において、個々の生徒の実態に応じた支援について検討し、個別の教育支援計画を作成した。中3生が多かったため、高等学校へつなげていく資料として活用できた。		・県で検討している新しい個別の指導計画や、個別の教育支援計画の様式にあった計画の作成を検討していく。
		授業力の向上を目指し、異校種間授業参観や、ICT教材の活用、指導法の工夫を通して、わかりやすい授業の研究及び実践を行う。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	・本年度も、すべての教員が異校種及び前籍校授業参観を行った。前籍校の雰囲気や通常学校での授業の様子は、本校での学習指導の参考となった。校内研究会において、教諭全員の授業提案により合理的配慮の検証、児童生徒の変容と研究成果が確認できた。		・今年は特に在籍児童生徒数が多く、一人2校の見学は厳しいとの指摘があった。来年度は一人1校以上という条件で引き続き計画していきたい。
		社会性の育成を目指し、児童生徒の実態に即した系統的なキャリア教育やコミュニケーション能力の育成を行う。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	・各行事において児童生徒の実態に合わせて役割分担をし、活動することができた。それぞれの児童生徒が達成感を得ることができた。 ・キャリア教育年間計画に基づき系統的、継続的に取り組んだ。特に中3生の進路指導においては、面接指導を丁寧に行い成果を上げることができた。		・行事への取り組みについては、それぞれの児童生徒の狙いを確認し、意識しながら実施する。また、情報交換や指導のあり方について確認する機会を設ける。 ・発達段階に合わせた、より現実的な『つけさせたい力』の設定を行い、キャリア教育年間計画を見直す。
2	病弱児教育の充実とセンター的機能の発揮に努める	前籍校へのスムーズな復帰をめざし、関係機関との連携を充実し、転出児童生徒のフォローアップに努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	・医療及び関係機関との連携を深めながら、児童生徒がより安心して本校への通学が可能となるよう環境調整等を行った。 ・2学期以降、分校との連絡会を実施し、情報交換を通して対応の質を高めることができた。	B	・前籍校との定期的な情報交換を行い、児童生徒がスムーズに復帰できるよう、関係機関も含め連携していきたい。 ・転籍においては、十分な教育相談が行えるよう環境を整えたい。 ・分校との連絡会は、継続していく。
		HPやブログでの情報発信や、病弱専門部特別支援連携協議会の充実を図ることによって、病弱児教育への理解と啓発に努める。	児童生徒・保護者及び関係者へのアンケート、学部会での検証(満足度80%)	・病弱専門部特別支援連携協議会については、市町村教育委員会の理解協力のもと運営でき、病弱学級担当者の連携強化、資質向上に向けた取組も満足度が高かった。 ・週1回以上、ブログを更新し、学校の情報を発信することができた。		・連携協議会については、今年度の取り組みを継続し、充実できるよう運営する。参加者のニーズや状況に応じた研修会の実施や情報提供を行っていく。 ・HPの充実、ブログの発信について、今年度と同じ取り組み。
		高校生こころのサポートルームの本格実施に伴い、関係機関及び高等学校との連携を深め、相談支援の充実にも努める。	関係機関、相談者等へのアンケート等による検証(満足度80%)	・高校生こころのサポートルームは、延べ31件のケースに対応した。対応した高等学校の満足度は高く、理解も深まっている。 ・医療や関係機関との連携を強化し対応することができた。		・次年度は、高校生サポートルーム事業の運営主体が本校が中心となって実施される。 ・担当者の資質向上を目指し、研修を通して、合理的配慮や高等学校の先進校の実践などを学び、相談支援に生かしていく。

学校関係者評価	
実施日(平成28年2月18日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 個人差が著しく大きい対象児童生徒に対し、教員個々が努力を持ってよく対応していると思われる。進学実績を含めて高く評価できる。 会議が本校のみで行われているが、分校での会議の実施や、授業参観の機会があるといい。 いじめ経験者のトラウマとして適応障害が起こることもある。病院でも、医師よりも学生や看護師に話すことが多いが、学校ではどのような対応をしているのか。SC等、学校から離れた人との対応が望まれる。 本校と分校の学校評価について、比較するには、質問項目の順番や内容を統一した方がよい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 病弱教育については、対象の変化も大きく現在緩やかな変換点にきている。現時点で高校生こころのサポートルームの実績は高く評価できるが、増えつつある小児がん患者等に対するセンター的機能は、より充実を求めたい。 高校生こころのサポートルームについて、センター的機能の範疇での対応と言うこともあるだろうが、生徒の立場から考えると学校を介さない相談ルートがあった方がよいと思う。 高校生こころのサポートルームの相談件数が増加しているが、十分対応できるのか。心理士等は学校外へ出向いての相談も受けているのか。できれば県の十分な対応を望む。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。